

平成 30 年度 地域管理経営計画等に関する検討会 委員からの主な意見

1. 地域管理経営計画等の策定・変更について

(流木対策について)

- ・ 近年、集中豪雨が増えて森林からの流木が問題になっている。対策をしっかりと講じて欲しい。

(森林整備について)

- ・ 森林整備に投入できる人的・経済的資源が限られているなかで、緊急性の高いところから可能な範囲で森林整備を行うことで災害防止にもつながっていく。

(計画の実効性について)

- ・ 計画に対して実行が下回っている。バイオマス・合板などの大型工場が増え、国産材需要は堅調に推移しはじめたので、計画の実行性を上げ、木材の供給量を増やしてほしい。

(国産材利用などの PR について)

- ・ 国産材の良さが消費者には伝わっていない。国産材の良さについては大学等で研究されており、そのような研究を活用するなどして国産材の良さをもっと積極的に PR すべき。
- ・ 「持続可能な開発目標(SDGs)」の視点から、植えるために伐る、二酸化炭素を固定するから木材を使うことは良いことだ、ということを積極的に PR すべき。

(花粉症対策について)

- ・ 花粉症対策が一筋縄に行かないことは承知しているが、花粉症患者が一日でも早く救われるよう、スピード感を持って対策に取り組んで欲しい。

(ニホンジカ対策について)

- ・ 石鎚山系でも協議会を立ち上げて、ニホンジカ問題に対応していこうとしている。ニホンジカの捕獲に尽力している林業会社への支援が欲しい。

(人材育成について)

- ・ 持続可能な産業として林業を維持するために必要な人材が、絶対的に不足している。高知林業大学校で卒業した 20 名程度が、新たに林業に入ってきて

も、それ以上が年齢的な理由で退職している。主伐して再造林するにも人手が掛かる。人材育成に力を入れて欲しい。

- ・ 山主に少しでも利益を返す、伐採現場の従事者にもそれなりの収入がある、という環境を作る必要がある。
- ・ 人材が減っていく中、ICT等の技術を活用して森林を管理していく必要がある。

2. その他

- ・ ヨーロッパ材とのコスト競争力が国産材にはない。四国で伐った丸太を製材して東京で売っても、ヨーロッパから船で時間をかけて持ってくる方が安い。原木価格や労働賃金はヨーロッパと日本ではそれほど変わらない。競争力の違いは圧倒的な生産性。ヨーロッパの製材工場は大量に製材しており、そのために原木が大量に供給され、コストが下がっている。伐採現場での低コスト化に取り組みながら、木材の供給量をもっと増やす必要がある。